

私が仕事を引退できないでいる理由

11期 上村 人史

私はまだ現世に未練があり、仕事を引退できないでいる。未練がある現世とはIT業界だ。子供の頃からこの年になるまで、生活環境が大きく変化したとつくづく思う。特に変化が激しかったものは集積回路だ。

1. 5年で容量が2倍になるという変化を、50年間程繰り返してきた。この変化の法則がムーアの法則だ。ムーアの法則は入社してすぐに聞いたことがある。しかし、この法則がこれほどまでに世界を変えるということに気が付いたのはごく最近のことだ。

容量が2倍になるということは、大きさが半分になる、価格が半額になる、ということだ。利息にすれば、1年半で100パーセントを50年間になる。80億円だったものが、50年で1円になる計算だ。1970年、私が入社した頃の超大型コンピュータは、現在では1円に相当する。半導体がこんなに変化すれば、ITもほとんど同じ速さで変化する。

AI将棋やAI囲碁がトップ棋士を倒してまだ間もない。しかし、いつの間にか誰もがスマホで簡単に、人工知能を使える時代になる。これからこの分野が激変する時代が、もうすぐやって来る。こんな時に現役を離れて、「世の中の進歩が速いな、これからどうなるんだろう」などと距離を置いて見ていたくはない。開発現場にいて、変化を実感したい。

その未来が「なるようになる」のではなく、「私が携わったからこうなった」と言える機会があって欲しい。

そんなわけで、まだ引退できないでいる。

【ムーアの法則】

出典：ASCII.jp デジタル用語辞典

半導体の集積密度は18～24カ月で倍増し、チップは処理能力が倍になってもさらに小型化が進むという法則。世界最大の半導体メーカーであるインテル社創設者のひとりであるゴードン・ムーア博士が1965年に経験則として提唱したことに由来する。法則によれば、半導体の性能は指数関数的に向上するが、実際には、集積密度の向上ペースは鈍化している。このため、「集積密度」を「性能向上」に置き換えることで、法則は現在でも成立しているとされている。最近では価格対性能比で、18カ月で2分の1になるともいわれている。

【コンピュータの変遷】

1970年代に私が使った大型コンピュータ Hitac8800 気象庁に納めたものは0.5MBだったと記憶している。

スマホ iPhone 7
処理能力はスマホが上だ！

